生活に何かと役立つ連載コラム

つぶやきがんちゃんの

生活知恵袋

せいかつちえぶくろ

Vol. 81

今月のテーマ　様々な金融商品「目的に合わせた利用」を考える

世の中が進むにつれ経済活動も活発になり、それに合わせて金融商品に関しても実に様々なものが登場してきた。

ところで、金融商品と一口に言っても、その全体像を理解できている人はどれだけいるだろうか…？多様化が進めば進むほど、その商品毎の仕組みも複雑になり、判断を誤ってしまうと損失をまねいてしまうことにもなりかねないだけに、注意が必要だ。さて、改めて金融商品とは何かを考えてみよう。

銀行、証券会社、保険会社など金融機関が販売する商品は、金融自由化の流れの中で相互乗り入れとなり、それぞれが取り扱う商品の垣根は低くなった。結果、銀行や保険会社が投資信託を販売するなど、投資性の商品も、より身近なものとなってきている。代表的な金融商品としては、預貯金、投資信託、株式、社債、公債、保険などがあり、一つの分類のしかたとして「安全性」、「流動性」、「収益性」の3つに分けられる。それぞれにどういう意味を持つのだろうか？

「安全性」は元本保障や金融機関の経営上から見て安全であることを意味し、「流動性」は預けた資産の換金しやすさを意味する。そして、「収益性」は近年の地べたを這うような低金利の環境下にあって、誰もが願う「いかに多くの利益を上げられるか」を意味するものだ。ここで、ひねくれた見方をすると逆も真なりで、「安全性」に入らないものはリスクを伴うし、「流動性」に入らないものは、使いたいときに使えない。一方「収益性」に至っては、増やすことを目的としているのに運用効果が上がらないものもあるということだ。この3つに分類されたものはそれぞれに矛盾を抱え、別の言い方をすると「あっちを立てればこっちが立たず」になってしまう。金融商品の「収益性」は「ハイリスクハイリターン」「ローリスクローリターン」であり、「ローリスクハイリターン」は存在しない。極端な言い方をすると、安全性が高く、いつでも換金でき、収益の高い商品など存在しないのだ。金融商品だけに限った事ではないが、購入を決定する段階では、自己の責任による、正しい知識を基にした判断力が求められる。

一概に“儲かりそうだから”という安易な判断は禁物であり、それぞれの将来の目的に沿ったものでなければならない。資産の総額や内容、運用における知識や経験、許容できるリスクなど、それぞれの環境に合わせた金融商品の選択が必要であることは言うまでもない。

●資産を運用する

さて、そもそも資産運用とは何か？目的に合わせ、保有する資産を何処でどう運用するかを決めていくことだが、大別すると、貯蓄と投資の2つに分けられる。「貯蓄」は安全性を重視して確実に貯めるもので、「投資」はリスクを負って収益を狙うものと言える。

では、資産運用で一番大切なことは何だろうか？「貯蓄」と「投資」どちらが良いとかいう問題ではないが、大切なのは“目的が何なのか”であり、選択は、それによって当然に変わってくるものであるということだ。さらには、運用する期間の判断も重要で、短期・中期・長期の選択は目的に合ったものでなければならない。

かつて、結婚資金にしようとしていたお金を少しでも増やすべく、資産を投資信託に預けていたところ、使おうとした時には元本を下回っていたという方がいた。この方は、元本割れのリスクを知らずに購入したそうだ。判断する際に、何処が問題かは別として、こんなことにならないためにも目的に合わせた金融商品と、必要期間に合わせた資産運用を選ばなければならないのである。日銀がマイナス金利を発表し、預金するのに手数料がかかる事態にもなりそうな雰囲気で、異常とも言える状況。もはや資産運用とは言い難いのが実情だ。そこで、“ならば投資”をと考えるのは人情で、おもむろに投資を考え始めた方も少なくないのではないだろうか？国の方としても、株式市場にお金を投入してもらえれば、経済も活性化するというわけだが果たして結果は…!?

齋藤廣勝（さいとう ひろかつ）
株式会社トータルライフサポート代表取締役
・CFP®サーティファイドファイナンシャルプランナー
・1級ファイナンシャルプランニング技能士
・日本商工会議所　年金・退職金等認定講師
・住宅ローンアドバイザー
・金融広報アドバイザー

こちら

保険と暮らしの相談センター

“生命保険でこんなお悩みはございませんか!?”

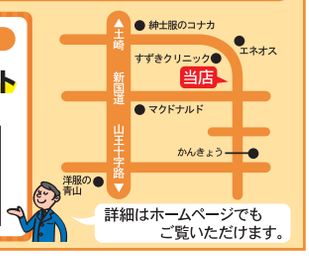
◆ 保険の見直しを検討している
◆ 加入している保険が本当に良いのかわからない
◆ 更新時期が近く、保険料がアップしてしまう
◆ 将来の子供の教育費が心配

相談は無料!!
納得いくまで相談できます。

お気軽にご相談ください。

total life support　募集代理店　株式会社 トータルライフサポート

〒010-0916　秋田市泉北3丁目17-22
● 営業時間／9:30～19:00
● 定　休　日／水曜日
TEL 018-827-7611
FAX 018-827-7610
URL http://tls-akita.co.jp



詳細はホームページでもご覧いただけます。

古い話だが、かつてバブル時代の定期預金は8％を超えることもあったが、この原稿を書いている時点での1年物のスーパー定期の金利は、ほぼ0・025％で実に320分の1だ。1億円の宝くじが当たれば預貯金の利子でも飯が食えるとも言われたもので、その利子は実に800万円にもなった。しかし、現時点で0・025％の利子は2万5千円にしかならない。現実的な金額、100万円を預けた場合の金利で計算すると、80000円と250円の差だ。79750円よ、お前は何処に行ってしまったのだ…！

●金融商品の選択基準

先にも示したように、金融商品には、投資した元本や利子の支払いの確実性を示す「安全性」、期待される収益を示す「収益性」、換金のしやすさの程度を表す「流動性」の3つの要素があるが、これらの3つの全てが優れている商品は存在しない。目的に合わせてバランスの良い組み合せが必要だ。

【表1】金融商品の3つの要素

安全性	預金の場合は、預け先の銀行が万一、経営破たんした場合でも、預金保険の対象となっている預金であれば、元本1,000万円と利子が保護される。債券は発行した会社が元本や利子の支払いを保証しているため、安全性が高い。預金については、預金保険などの保護制度の対象となっているか、債券であればそれを発行している会社の経営状態を確認した上での利用が必要。
流動性	現金化や引き出しに関する条件がそれぞれ異なり、途中で換金すると解約手数料が発生するものや、現金化するためには日数がかかるものもあるため、あらかじめ確認しておくことが必要。
収益性	株式や投資信託などの金融商品は、預金などよりも収益が期待できる反面、市場の動きによって収益が左右されるため、元本割れなどのリスクも伴う。どの程度のリスクを受け入れられるか、自分自身の責任で投資の判断をすることが大切で、これらの金融商品を購入する場合には、当分の間は使う予定がない“余裕資金”を充てることが基本だ。

●金融商品の種類

金融商品の種類を全部あげていたらきりがないので、主な種類の特徴について説明してみよう。

【預貯金】

円ベースでみた場合、元本を守るには適しているが、収益性は極めて低い。期待できるのは金利収入（インカムゲイン）が中心だ。生活資金入出金など特に流動性と安全性を重視するには最適な金融商品で、多くの家計においてベースとなる金融商品といえる。

【債券（国債・社債）】

国が発行するのが国債や社債などの債券だ。預金と似ているが、解約が出来ないなどの違いがあるほか、発行体（企業や国）の信用リスク（倒産等）がある。発行体の信用度の高さによってリスク・リターンが大きく変動する。信用力の低いものは利息は高めで、逆に信用力が高ければ利息は低いという“痛し痒し”の関係である。基本的には銀行預金と同様に利息収入（インカムゲイン）がメインとなる。

「社債」を一言で言うと、企業が資金調達を目的とした、いわゆる「会社の借金」と言える。その「社債」は、投資家から資金を調達する際に発行される有価証券だ。一方「国債」は、国が予算の不足等を補うことを目的とした、いわゆる「国の借金」と言える。「国債」は、日本国がその元本を保証する点が社債とは異なり、安全な分金利は低くなっている。

【外貨投資】

外貨（外国通貨）を買ったり、外貨建ての金融商品を売買するものだ。外貨投資には為替差損益が発生する。円高の時に購入し円安の時に売却すると差益は大きくなるが、その逆の場合（円安→円高）では差損となってしまう。日本での預金金利が低迷する中にあっては魅力的な外国の金利だが、円に戻すときに損失を被ってしまいかねないため、その仕組みをよく理解した上での運用を心掛けたいものだ。中長期的な視点での資産運用であれば、何らかの外貨性資産を組み込んでいくのも有効な投資商品と言える。

【株式投資】

成長しそうな企業に投資をしたり、儲かっている企業に投資をして、値上がり益（キャピタルゲイン）や配当金や株主優待など（インカムゲイン）を得るのが目的となるが、「ハイリスク・ハイリターン」であることに注意が必要だ。価格変動リスクは大きいものの、手軽に投資ができるという魅力もあり、分かり易いとも言える。しかし、イコール儲かりやすい訳ではない…。単純に目先の企業業績のみならず、その企業の背景にある世界情勢なども変動要因となるだけに、銘柄の選択や売買の時期には神経を使わなければならない。

【投資信託】

投資信託はそれ自体に、債券、外貨、株式、不動産など、様々な投資の性質があり、その性格やリスクの大小も、投資対象に応じて実に様々である。少額の資金で分散投資が可能な運用商品もあるので、比較的に初心者も利用しやすいと言える。一言ではくくれない程の様々なタイプがあり、性格の異なるものを組み合わせたテクニカルな運用も出来るため、その利用者も多い。

【年金・保険】

一見、資産運用とは思えないという向きもあるだろうが、貯蓄性の高い保険や年金などは、なかなかどうして立派な運用商品と言える。分かり易く、初心者にも利用しやすいものが多い。また、中には外貨建てのものや、保険会社の運用実績に合わせて変動するものもあるため、注意を怠ってはならない。保険には他にない独特のものとして、保障があり運用成果が確保できる。

●資産運用の注意点

ここまでに説明した金融商品の特徴などは、最も基本的な知識に過ぎない。実際の運用で効果的な成果を出すためには、金融関連の新聞などでの情報収集などを行ったり、また、ジャストタイムでの売買を行うにはパソコンの環境も必須と言える。

何度も言うようだが、資産運用を始める前に、先ずは目的を明確にしなければならない。その目的に合わせた商品の選択と、運用期間をあらかじめ設定をする必要がある。やがて訪れる“人生上のイベント”を意識し、将来の生活設計と重ねて考えるべきだろう。リスクとリターンの関係をよく理解し、知識や経験に見合った堅実な運用を心掛けたいものだ。

来月号は、運用ではなく、借りる金融商品（各種ローン等）の仕組みと利用する上での注意点を考えてみよう。